



1_金賞をとった5丁目区の「歓迎-ガゲゲの鬼太郎ご一行様」
2_なぞなぞクイズに盛り上がる参加者 3_暑い夏にはやっぱりこれ! 4_1丁目の造り物「くまもん」に見惚れる子どもたち
5_お地蔵さんに手を合わせる親子

地蔵祭り

8月23日、地蔵祭りが商工会女性部（門岡久子部長）主催により、さまざまなイベントが開催されました。江戸時代後期頃から子どもたちの健康と商売繁栄を祈って始まったと伝わる夏の風物詩。今年も、歩行者天国となった本町通りにはお地蔵さんが奉られ、趣向を凝らした5基の造り物が展示されました。門岡部長は「子どもたちが楽しめるようにと、女性部で奮起した。日ごろ歩かないところもスタンプラリーを通して、出歩き、「まちなか」を知ってもらえたら」と話しました。



復興古閑迫寅舞150周年記念式典

8月26日、上野の古閑迫の大宮神社で寅舞150周年記念式典が開催されました。町の無形民俗文化財に指定されている寅舞は、明治元年から雨乞いをするために始まったと伝えられており、古閑迫寅舞保存会（河部一光会長）が主催、今年で150年目。七滝中央小学校の和太鼓新風「響」で始まり、自然の中で奏でる竹笛と太鼓の中で、子どもから大人まで寅と猿を演じ、会場を盛り上げました。河部会長は「地域で助け合い、復興することでやっということができた。これからは、寅舞の後継者を育てながら、頑張っていきたい」と話しました。



▲元気いっぱい和太鼓新風「響」 ▲七滝中央小児童による寅舞のはじまりを演じた寸劇



▲古閑迫が誇る伝統芸能「寅舞」

みふね精霊流し ～精霊舟に想いをのせて

8月16日、御船川の河川敷で故人や先祖を供養する夏季慰霊祭（町主催）と精霊流し（御船町精霊流し保存会主催）が開催されました。御船精霊流しは、300年以上続くと伝えられている伝統行事です。初盆を迎えた遺族などが精霊舟を出して、花火をうち上げたり、爆竹を鳴らし、故人を見送りました。多くの観客が見守る中、故人に宛てたメッセージが書かれた万灯と22基の精霊舟が川の流れに沿って下り、大きな炎に包まれていました。



1_精霊舟に火を放ち送り出す
2_手を合わせ、故人を偲ぶ
3,4_精霊舟の前で記念撮影
5_幻想的な灯りを放つ万灯



子ども英語劇 ～「ビューティールー&カントリービースト」

8月25日、今年で24回目を迎えた御船町子ども英語劇がカルチャーセンターで上演されました。今回の英語劇は、「ビューティールー&カントリービースト」で現代風にアレンジされたミュージカルを町内の小中学生46人が演じました。6月からA L Tのクリス先生を中心に行われていたセリフ練習も、最後の1週間では、ミズーラ子ども劇場の所属俳優から実演指導が行われました。劇では、子どもたちの迫真の演技や御船高校生と熊本大学生、劇出演者の保護者のピアノ伴奏にあわせ、色とりどりの衣装とメイク姿で歌を歌う楽しい雰囲気会場を包みました。

